

**【栃木県】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	栃木県
担当課名	教育委員会事務局健康体育課
電話番号	028-623-3415

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	1,895,031人	部活動数	1,788部活
市区町村数	14市11町	都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校数	152校	都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み
公立中学校生徒数	48,500人		

実証事業に参加した市区町村数	5市
実証事業に参加した拠点校数（域内の合計）	27校
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数（域内の合計）	61部活

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

○少子化の影響等により運動部員数が減少し、単独でチームを組めない部活動が増え、学校単位での活動が困難になっている。そのため、近隣の学校や地域で協力しながら生徒のスポーツ活動の機会を確保する体制の整備が必要である。特に、地域クラブ活動の運営にあたる運営団体の確保や指導者の確保が大きな課題である。

○部活動は勤務時間外に行われることが多く、教員が部活動指導を行いながら休日を含めた在校等時間をなくすことは難しい現状がある。教員の負担軽減の観点も踏まえ、子どもたちのスポーツ活動を地域が担える体制を構築し、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保することが必要である。

○これまでの学校部活動を通じた教育的意義を地域の活動においても継承・発展させていくには、学校・行政・運営団体の三者の連携が必要である。

栃木県内中学校部活動加入率の推移

(%)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
運動部	71.9	70.8	70.1	69.7	68.6	68.5	67.4	65.7
文化部	20.3	20.0	20.5	20.4	20.7	20.6	20.4	21.0
全体	92.2	90.8	90.6	90.1	89.3	89.1	87.8	86.7

運動部に関する調査（栃木県教育委員会）

県中体連主催大会への合同チーム参加数及び学校数推移

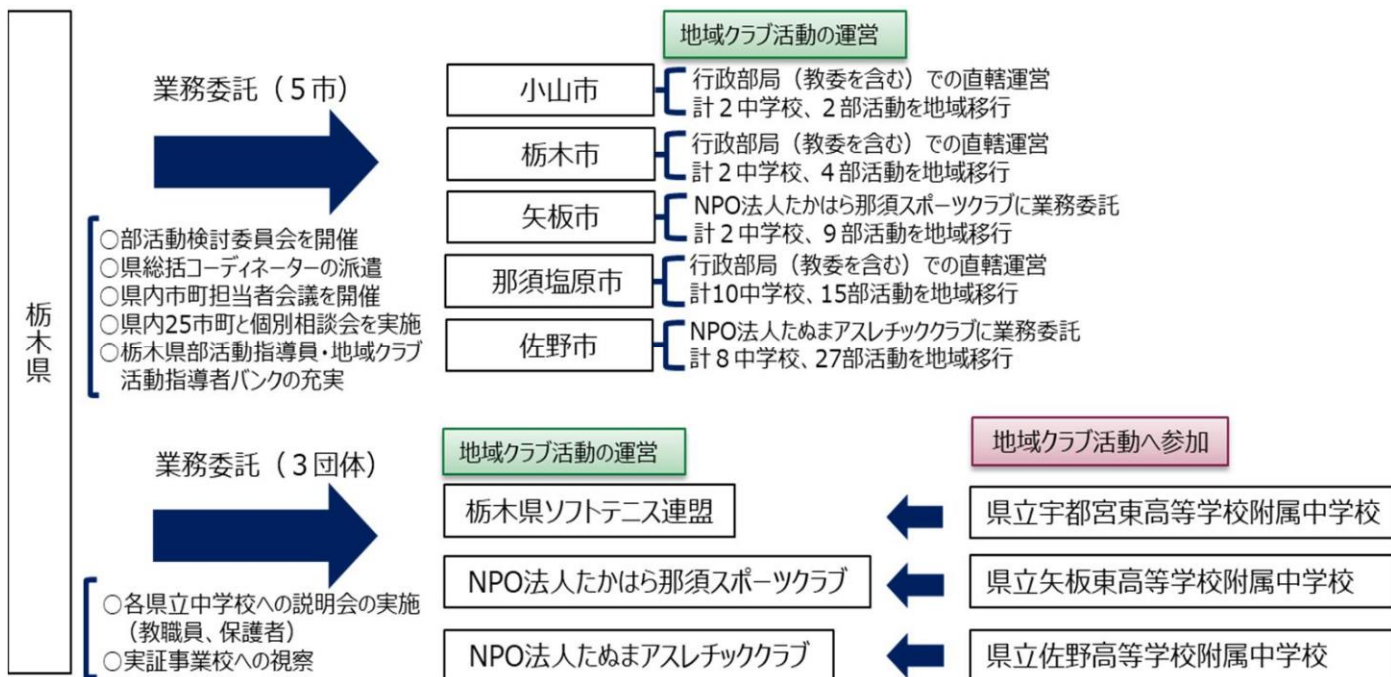
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
合同チーム数	27	38	31	48	11	44	45	69
学校数	56	81	70	102	24	95	98	154

（栃木県中学校体育連盟提供）

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼事業実施体制図



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（健康体育課）**
 - ・事業全体の調整
 - ・実証事業の支援、助言
 - ・栃木県部活動改革検討委員会WGの設置
 - ・栃木県部活動改革検討委員会の開催
- **首長部局（スポーツ振興課）**
 - ・栃木県部活動改革検討委員会WGに参加
 - ・今後の部活動改革や地域移行についての在り方等について検討
 - ・運営団体の整備充実
 - ・地域クラブ活動指導者の養成、確保
 - ・県スポーツ協会や競技団体等の関係団体に対する情報提供
 - ・市町スポーツ所管課との連携

年間の事業スケジュール

- | | |
|--|---|
| 5月 各市町地域移行進捗状況調査
県総括コーディネーター派遣（～1月） | 10月 第2回栃木県部活動改革検討委員会
県立中学校地域クラブ活動の開始 |
| 6月 第1回栃木県部活動改革検討委員会 | 11月 地域クラブ活動 現地視察(県立中、佐野市) |
| 7月 部活動地域移行 市町担当者会議 | 12月 実証事業アンケートの実施
(学校長、教員、生徒、保護者、地域クラブ活動指導者) |
| 8月 運動部活動指導者研修会(地域クラブ活動指導者参加) | 2月 事業完了報告書・成果報告書等の作成 |
| 9月 部活動の地域連携・地域移行に係る 個別相談会
栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク設置 | |

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

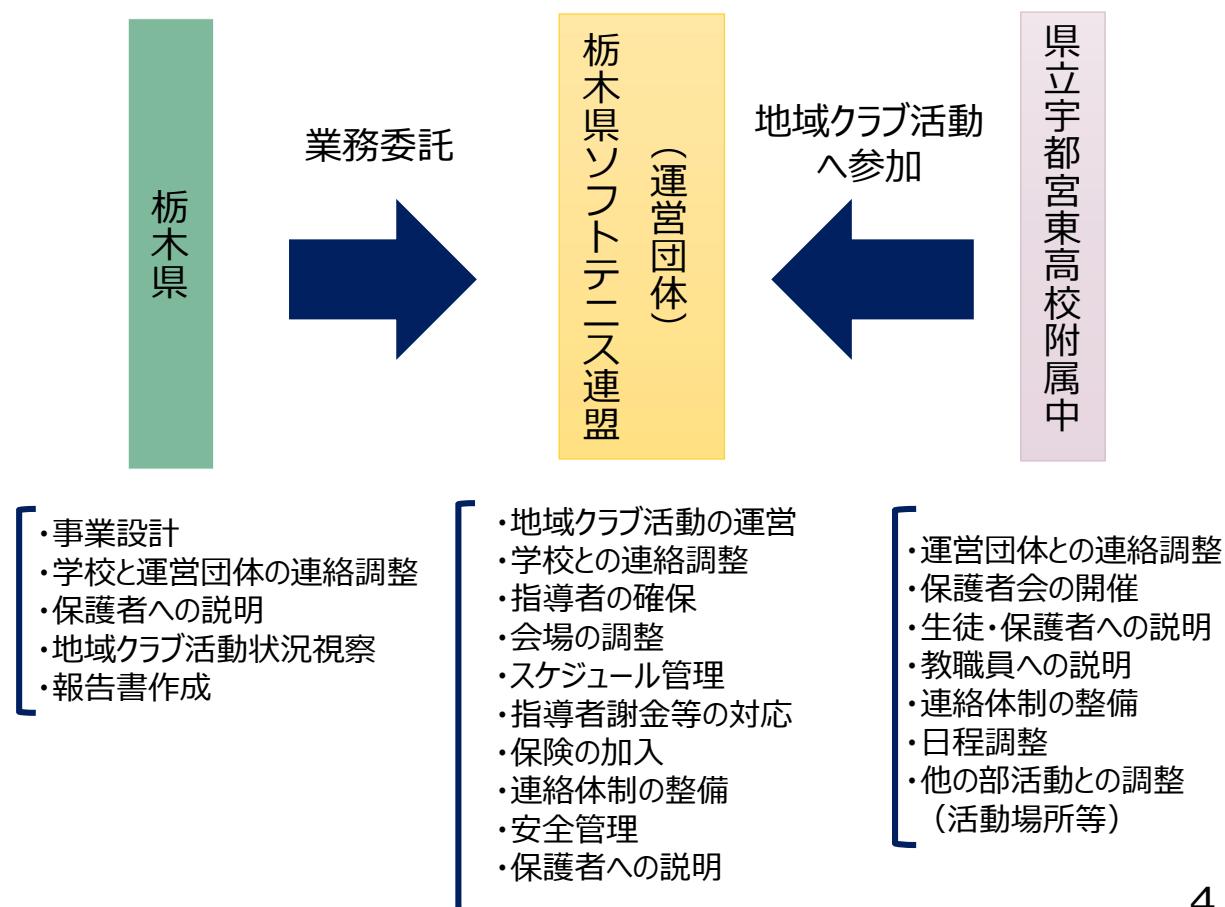
拠点校数	県立中学校 3校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	男子ソフトテニス、サッカー、男子バスケットボール、女子硬式テニス
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

主な取組例①

▼活動概要

拠点校名	県立宇都宮東高等学校附属中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子ソフトテニス
運営主体名	栃木県ソフトテニス連盟
運営類型	その他 (その他の類型：競技団体運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	ソフトテニス：月3回程度
指導者の主な属性	栃木県ソフトテニス連盟所属
活動場所	学校施設（テニスコート）
主な移動手段	自転車、電車等
1人あたりの参加会費等（年額）	ソフトテニス：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



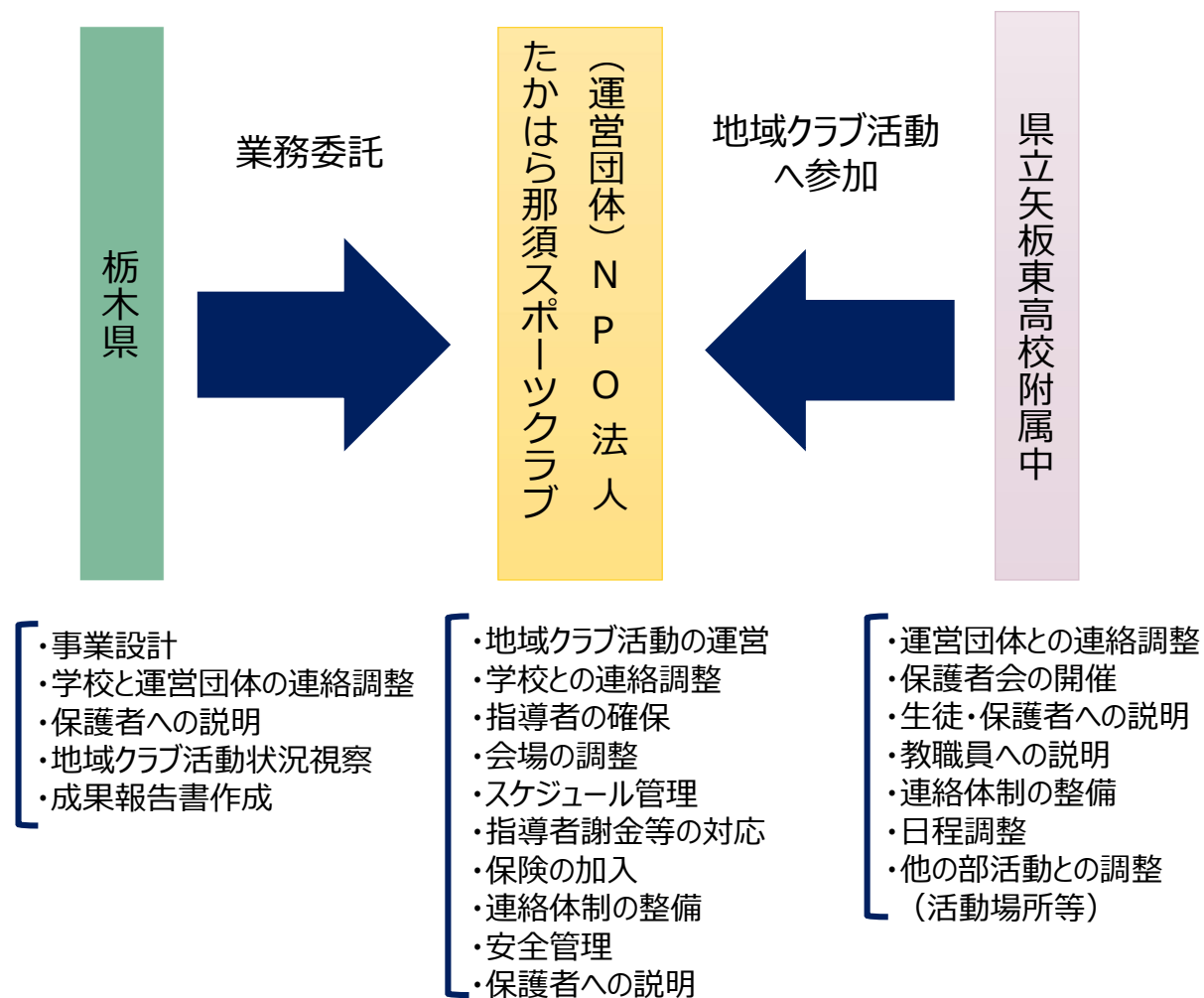
2. 実証内容と成果

主な取組例②

▼活動概要

拠点校名	県立矢板東高等学校附属中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営主体名	NPO法人たかはら那須スポーツクラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 (総合型地域スポーツクラブ運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月3回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ所属 教員の兼職兼業
活動場所	学校施設(校庭) 総合型地域スポーツクラブサッカー場
主な移動手段	自転車、電車等
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



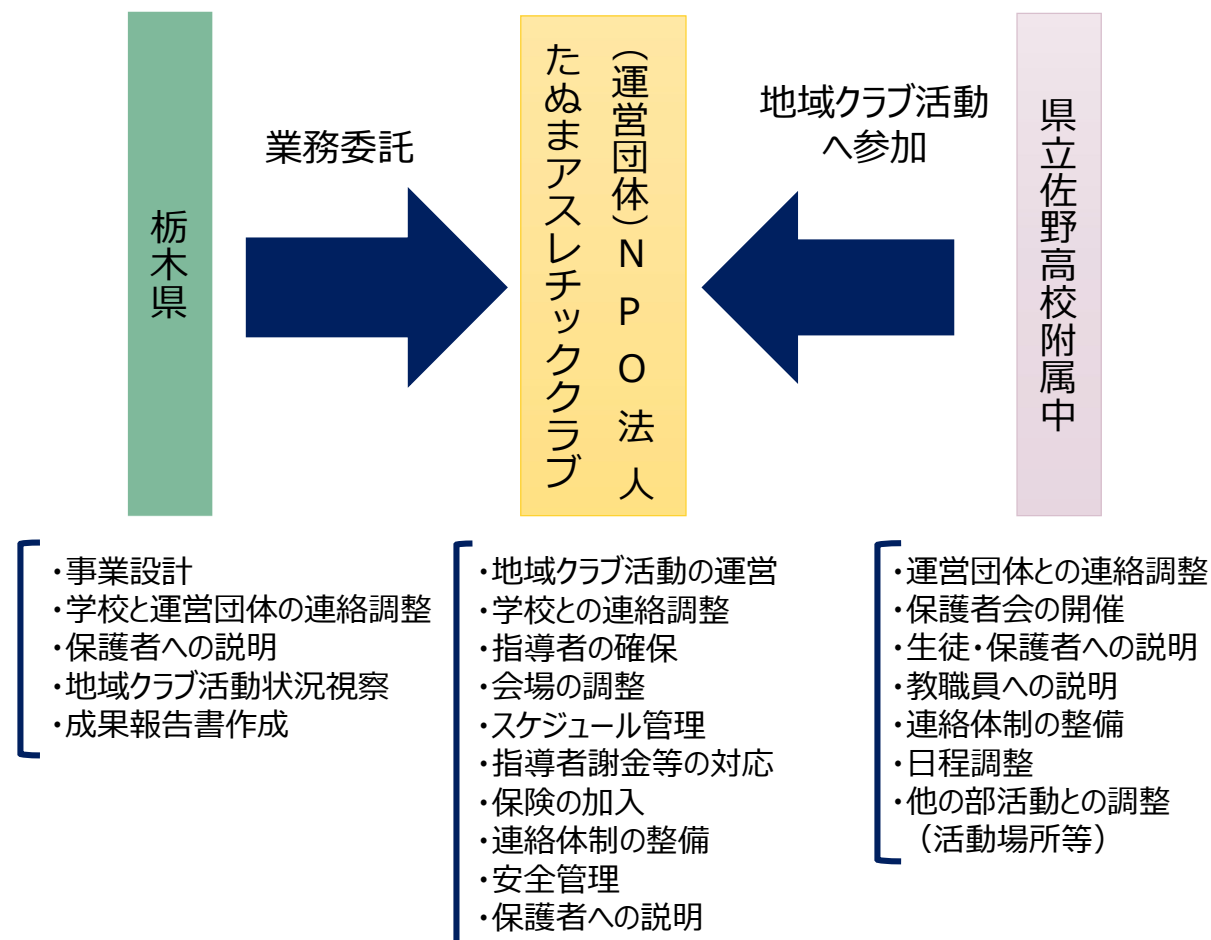
2. 実証内容と成果

主な取組例③

▼活動概要

拠点校名	県立佐野高等学校附属中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケットボール、女子硬式テニス
運営主体名	NPO法人ためまアスレチッククラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 (総合型地域スポーツクラブ運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	男子バスケットボール：月3回程度 女子硬式テニス：月3回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ所属 (佐野市バスケットボール協会からの推薦) 部活動指導員
活動場所	学校施設(体育館、テニスコート)等
主な移動手段	自転車、電車等
1人あたりの参加会費等(年額)	男子バスケットボール：0円 女子硬式テニス：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

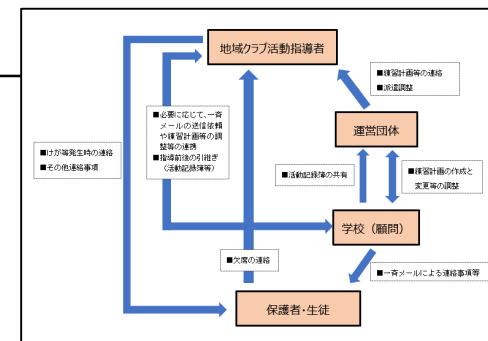


取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

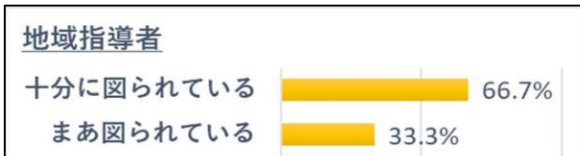
- ・各市町における部活動の地域移行を丁寧に進めていくため、市町担当者を対象とした会議や、市町との個別相談会を開催。
- ・各市町等に対する県の総括コーディネーター派遣による、地域移行に係る情報提供及び指導・助言の実施。
- ・県立中学校の地域クラブ活動の実施に当たって、安全面・緊急時の対応等に関するQA及び連絡体制図を作成。



【連絡体制図】

取組の成果

- ・**個別相談会**の開催件数 全25市町
- ・**総括コーディネーターの派遣**件数 14回
 派遣先からは、全国の取組状況を踏まえた情報や運営団体の視点から関係者間の連携などについて助言を得られたことで、今後の取組の参考になった等の意見があった。
- ・安全面・緊急時の対応等に関する**QA**や**連絡体制図**を作成することにより、地域指導者や教員、保護者等との連携が円滑になった。県立中学校実証事業のアンケート結果では、「連携が図られていたか」という問いに対し、教員、地域指導者ともに**肯定的な回答**となった。



特に工夫した事項

- ・総括コーディネーターに栃木県部活動改革検討委員会の委員を兼任してもらうことで、本県の状況や方向性等をよく把握した上で、情報提供や指導・助言ができるようにした。また、各市町が、総括コーディネーターに相談する機会を得やすくするため、県が開催した個別相談会の場に総括コーディネーターを派遣できるようにした。
- ・各校において、QAや連絡体制図を、学校、運営団体、地域指導等の関係者で協議して作成することで、関係者の意思の疎通が図られるとともに、連絡体制の整備が円滑に行われた。

今後の課題と対応方針

- (課題) 新たにコーディネーターを配置する市町が増えており、市町のコーディネーターへの支援が必要。
- (対応方針) 総括コーディネーター派遣事業の充実。
- (課題) 地域クラブ活動への参画が期待される総合型地域スポーツクラブや文化芸術団体等の団体数が十分でない状況にある。
- (対応方針) 行政が支援をしながら、運営団体の整備充実を進める必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」の設置
- ・栃木県教育委員会主催の「運動部活動指導者研修会」を開催（地域クラブ活動指導者も研修対象）
研修内容「暑熱下における対応について」「短時間で効果的な指導について」

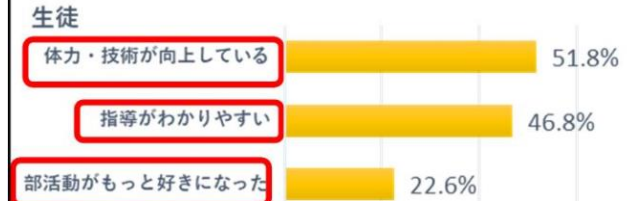


【運動部活動指導者研修会】

取組の成果

- ・令和5年9月、これまでの部活動指導員を対象にした人材バンクに、地域クラブ活動指導者を新たに対象に加えた「**栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク**」の運用を開始し、107名を登録した（令和6年3月現在）。課題であった指導者の確保に向けて大きな成果が見られた。
- ・県内実証事業校に対するアンケート結果では、地域指導者の指導を受け、生徒の約52%が「**体力・技術が向上した**」、約47%が「**指導がわかりやすい**」と回答した。

地域指導者の指導を受けてどのように感じていますか。



特に工夫した事項

- ・新たな指導者バンクの設置に伴い、**募集チラシ**を作成し、関係団体等への周知を行い、指導者を募集した。また、「地域クラブ活動指導者」を募集する際、**指導経験があること**、もしくは、**指導者資格を有する**などといった資格要件を定め、指導者の質の保証にも努めた。
- ・県スポーツ協会と連携し、スポーツ指導者資格取得講習会の際に、指導者バンク募集チラシを配布し、指導者バンクへの指導者登録の促進に努めた。

今後の課題と対応方針

- （課題）指導者バンク登録者と学校や地域クラブとの**マッチングケース**が少ない。
- （対応方針）メディアやSNS等を活用した積極的な情報発信、指導者のマッチングにつながる仕組みの構築
- （課題）指導者の資質向上。
- （対応方針）資格取得促進等により指導者が研修を受ける機会を確保。

栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク登録者募集

栃木県教育委員会では、部活動の地域連携や地域移行を推進するため、「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」を設置し、部活動指導員・地域クラブ活動指導者を募集します。

募集は以下の方法で行います。

栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクとは

県内の中学校・高等学校に在籍し、部活動指導員として部活動の指導を行っていたり、学校部活動や地域移行した「地域クラブ」で指導を行っていたり、栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクに登録していただき、部活動指導員や地域クラブ活動指導者の加減を検討する市町村教育委員会や県立学校、地域クラブに登録されるものです。

※学校や市町村教育委員会と連携して活動する「地域クラブ」

登録申請方法（栃木県電子申請システム）

- Step 1 右記の二次元バーコードを読み取る。
- Step 2 必要事項を入力し、登録申請。
- Step 3 登録申請完了！

【問合せ先】
 栃木県教育委員会事務局 健康体育課 TEL:028-623-3415
 生涯学習課 TEL:028-623-3404

栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクに関する詳細ページ

【募集チラシ】

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・スポーツ少年団やスポーツ推進委員の代表者を新たに委員に加え、栃木県部活動検討委員会を開催。
- ・県スポーツ協会やスポーツ部局と連携し、競技団体や総合型地域スポーツクラブ関係団体等に対し、県担当者による部活動地域移行の説明を実施。
- ・部活動地域移行市町担当者会議を開催。
- ・県・市町教育委員会教育長、教育委員及び行政担当者を対象とした研修会において、部活動の地域移行に係る内容の講演を実施。(地域スポーツクラブ活動アドバイザー派遣制度活用)

取組の成果

- ・県スポーツ協会と連携をし、競技団体、総合型地域スポーツクラブ等と地域移行に係る情報の共有を図る機会を設けることで、地域クラブ活動環境の整備に向けた連携体制の構築につながり、実証事業に対して、協力的な団体が増え、栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクへの登録者も増加した。
- ・**部活動地域移行市町担当者会議**を開催し、**実証事業の成果や課題について周知**するとともに、各市町の取組状況について、**各教育事務所や市町教育委員会の担当者間で情報交換**を行い、連携体制の構築につながった。



【部活動地域移行市町担当者会議】

特に工夫した事項

- ・部活動地域移行に係る研修会においては、**地域スポーツクラブ活動アドバイザー**から、部活動地域移行の背景、地域移行の捉え方、新潟県の状況、長岡市の取組についての講演をいただき、県・市町教育委員会教育長、教育委員及び行政担当者が部活動地域移行の背景や課題などを理解し、今後の取組に向けて**共通認識**を図ることができた。



【地域スポーツクラブ活動アドバイザーの講演】

今後の課題と対応方針

- (課題) 部活動の地域移行の推進に向けて、運営団体や指導者の確保が重要であり、スポーツ・体育協会をはじめ、総合型地域スポーツクラブや競技団体等との連携体制の構築が更に必要である。また、市町をまたいだ広域的な取組を進めるため、教育事務所と市町の連携が図れる体制の構築も必要である。
- (対応方針) 関係団体との連携を図るため、会議等における参加対象者を検討したり、会議やグループ協議の内容について工夫したりする。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・実証事業を行った中学校・義務教育学校（後期課程）の全保護者、生徒、校長、教員、地域指導者を対象に「**休日の地域クラブ活動に関するアンケート**」を実施し、地域クラブ活動の維持・運営に必要なコスト、受益者負担等検証、エビデンスとしての整理を行った。
 ・休日の学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行に向けた**普及・啓発資料チラシ**を作成。

取組の成果

・アンケートは保護者740名、生徒2179名、校長19名、教員64名、地域指導者33名から回答。
 ・参加費用等が発生した場合、約半数の生徒や保護者は参加を迷っており、**生徒の約35%は「参加したくない」と**考えている。保護者については、約34%が「とても参加させたい」、「参加させたい」と回答をしている一方で、**約17%は「全く参加させたくない」、「参加させたくない」と**回答していることから今後も丁寧な説明が必要になる。
 また、地域移行した場合の妥当額については、**3千円未満**が妥当であるという回答が多かった。

特に工夫した事項

・既存の運動部活動における活動経費の調査を実施した。今後、会費の適切な設定や支援方策の検討材料とし、持続的な地域クラブ活動を目指した仕組みづくりにつなげていく。

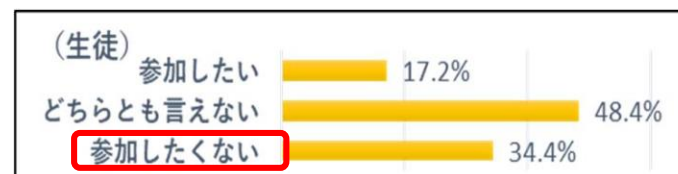
※18,000円/年額（R5 運動部活動に関する調査）

今後の課題と対応方針

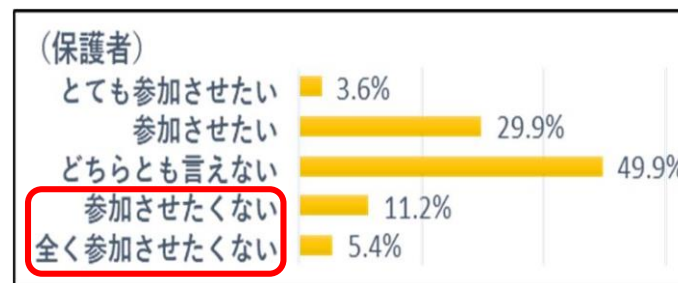
（課題）現在は、国庫事業を活用し、受益者負担がない状況で実証事業を進めているが、今後は、持続的に活動することを前提とした仕組みづくりが必要となる。**参加費用負担の理解促進**や、可能な限り**低廉な参加費**により活動できる環境の整備が求められている。

（対応方針）**チラシ**や**メディア**を活用した関係者への周知に努める。県立学校施設を活用した地域クラブ活動における施設使用料等の在り方について検討を進める。

月謝を支払う場合の休日の地域クラブ活動への参加について



地域クラブ活動に参加する際に保護者負担があっても参加させたいか。



地域クラブ活動の保護者が負担する妥当額（月謝）はいくらか。



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・県立学校施設での地域クラブ活動の実施
- ・実証事業校アンケートの実施
- ・県立学校施設等を活用した地域クラブ活動における施設管理や利用のルール、施設使用料の在り方について、施設課を含む関係課と現状把握をし、今後の取組について検討

取組の成果

- ・普段通学している学校施設での活動であったため、施設料の負担なく、移動や送迎等の負担も少なく活動することができた。
- ・施設の管理については、実証事業校のアンケートから、施設の鍵の施錠を含め、地域指導者や教員から課題としてあげられ、実態の把握につながった。
- ・AEDの設置場所が校舎内の場合があり、屋外で地域クラブ活動をする種目においては、緊急時には校舎内に入る必要があり、校舎内の鍵の管理についても学校と運営団体で調整が必要になるという実態を把握できた。

特に工夫した事項

- ・県立中学校での地域クラブ活動の実証事業を開始する前に、高等学校の教員にも事業について把握してもらい、鍵の施錠や緊急時の対応等については、学校で対応していただけるよう協力体制を整えた。

今後の課題と対応方針

- (課題)** 県立中学校においては、休日に高等学校が部活動で活動しているため、学校内に教員がいる場合が多いが、今後平日も含め、多くの部活動が地域移行した場合の鍵の施錠等、施設管理の対応について、検討が必要。
- (対応方針)** AEDの屋外への移設工事やスマートロックの設置、校舎内で地域クラブ活動を実施する場所のみ警備を解除できる等のセキュリティ整備の工事等の検討を進め、教員に頼らず、運営団体による持続可能な地域クラブ活動となるよう、環境整備に努める。

休日の地域クラブ活動を実践しての課題

(地域指導者)



(教員)



2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

「休日の学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行」普及・啓発資料

休日の中学校の部活動を地域で実施

— 学校部活動から地域クラブ活動へ —

生涯にわたり、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、令和5(2023)年度から、地域の実情に即して休日の公立中学校の部活動を段階的に地域に移行します。

- ▶ 学校部活動（休日）から地域クラブ活動への移行に向けた環境整備を推進
- ▶ 地域クラブへの移行が困難な場合には、合同部活動の導入などの地域連携を推進



なぜ学校部活動の地域移行・地域連携をするの？

- 少子化の影響で部員が減り、チームが編成できない場合があります。
- 通学している学校に自分のやりたい部活動が無い場合があります。
- 時間外勤務などの教員の負担を軽減する必要があります。
- 部活動に対する生徒のニーズが多様化しています。

【ニーズの例】 「楽しみたい」 「うまくなりたい」
 「自分のペースで活動したい」 「大会で結果を残したい」
 「スポーツも趣味もやりたい」 「将来はプロになりたい」



子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に
継続して親しむことができる機会を確保する必要



学校部活動の地域移行のメリットは？

- 地域指導者から専門的な指導が受けられます。
- 複数のスポーツ・文化芸術活動に参加することが可能になります。
- 地域の多様な年代の方々との交流が増えます。
- 中学校3年間を通して、継続した活動をすることができます。
- 自分の目的に合った活動の選択肢が増えます。

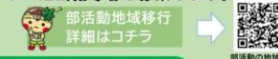
【平日と休日の活動の例】 ① 平日：運動部 休日：地域クラブ
 ② 平日：文化部 休日：地域クラブ
 ③ 平日：休み（趣味） 休日：地域クラブ
 ④ 平日：運動部 休日：休み（学習）

【普及啓発チラシ】



栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク登録者募集

栃木県教育委員会では、部活動の地域連携や地域移行を推進するため、「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」を設置し、部活動指導員・地域クラブ活動指導者を募集します。



栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクとは

県内の中学校及び県立学校において、部活動指導員として部活動の指導を行っていただける方や、学校部活動を地域移行した「地域クラブ」で指導を行っていただける方に「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」に登録していただき、部活動指導員や地域クラブ活動指導者の配置を検討する市町教育委員会や県立学校、地域クラブに情報提供するものです。

※学校や市町教育委員会と連携して活動する「地域クラブ」



登録申請方法（栃木県電子申請システム）

Step 1

- ・ 右記の二次元バーコードを読み取る。

※下記URLからも登録申請可能です。

https://apply.e-tumo.jp/pref-tochigi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=5372



Step 2

- ・ 必要事項を入力し、登録申請。

※資格要件については裏面参照。

Step 3

- ・ 登録申請完了！

※県教育委員会は受理した申請内容をもとに審査を実施し、審査結果を2週間以内に通知します。

【問合せ先】

栃木県教育委員会事務局 健康体育課 TEL:028-623-3415
 生涯学習課 TEL:028-623-3404

栃木県部活動指導員・地域クラブ活動
指導者バンクに関する詳細ページ



【指導者バンク募集チラシ】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【ソフトテニス：打ち方の指導】



【ソフトテニス：活動の振り返り】



【サッカー：地域クラブ活動指導者も加わりミニゲーム】



【サッカー：活動の振り返り】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【バスケットボール：ボールの受け方の指導】



【バスケットボール：活動の振り返り】



【硬式テニス：打ち方の指導】



【硬式テニス：活動の振り返り】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 庁内部活動改革検討委員会ワーキンググループを設置し、本県の部活動改革や県立中学校の部活動の地域移行の方向性、地域移行に向けた市町への支援の在り方に関して、関係課と協議を進めた。
- 県教委に栃木県部活動改革検討委員会を設置し、部活動の現状把握・問題点の分析や、地域部活動推進事業の成果・課題の検証を行うとともに、将来にわたり生徒にとって望ましい部活動の環境の構築や、学校の働き方改革を考慮した更なる部活動改革の推進に向けて協議を進めた。
- 「とちぎ部活動移行プラン」策定
 - ・休日における学校部活動の地域移行を進めるための計画を示し、各学校へ周知。
- 次年度の県立中学校の地域クラブ活動実証事業実施に向け、運営団体、学校と連絡調整

- 県立中学校地域クラブ活動実施に向けての流れ
 - ① 部活動地域移行の理解促進のため、県教委が普及啓発チラシを発行し、各学校へ周知
 - ② 県立中学校拠点校との打ち合わせ・実態把握
 - ③ 運営団体との打ち合わせ・実態把握
 - ④ 県教委、学校、運営団体3者打ち合わせ
 - ⑤ 実証事業に向け、県教委から学校職員への事業説明や協力依頼、運営団体から運営方針の説明、地域クラブ活動指導者と部活動顧問との打ち合わせ（連携手段、指導方針、スケジュール等の調整等）
 - ⑥ 保護者への説明会、参加同意書提出
 - ⑦ 運営団体による保険加入
 - ⑧ 地域クラブ活動開始
 - ⑨ 県教委による地域クラブ活動視察
 - ⑩ 実証事業校アンケートの実施

- 学校や運営団体と引き続き連携しながら、実証事業に取り組んでいく。令和6年度以降は、令和5年度の実証事業を踏まえ、対象となる部活動を拡充
- 休日だけでなく、平日の活動や受益者負担についても引き続き検討
- 少子化の影響から、県立中学校単独での活動が難しい種目については、県立中学校と市立中学校が連携した地域クラブ活動の実施について検討を進めていき、生徒のスポーツ活動の機会確保に努める。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

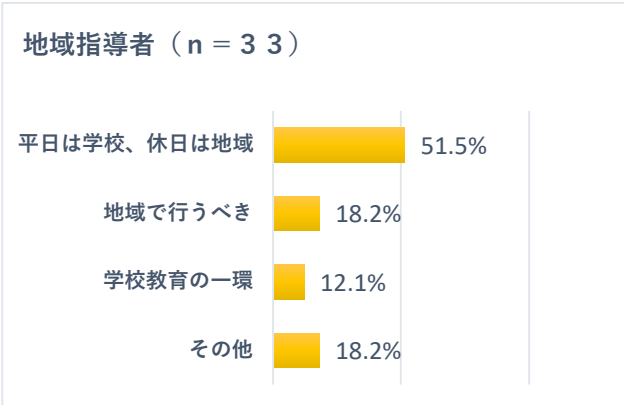
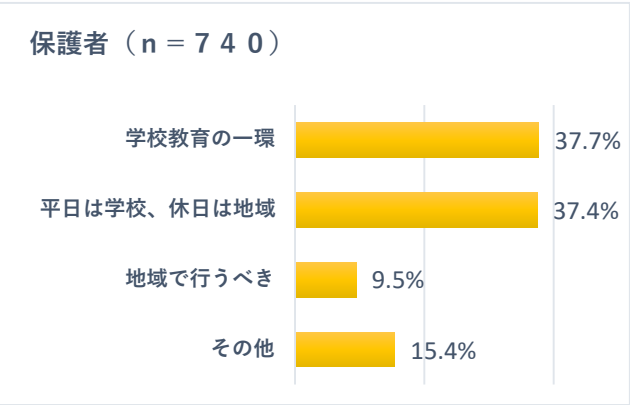
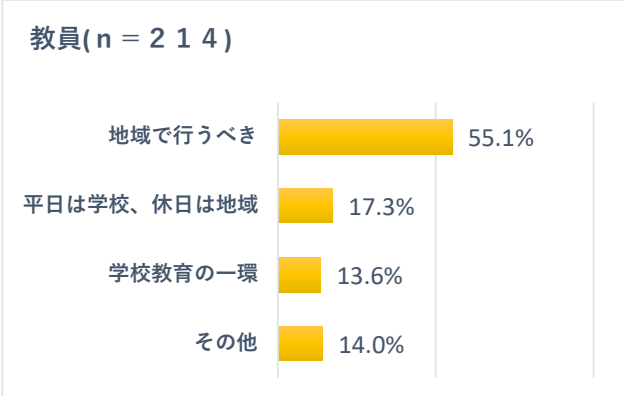
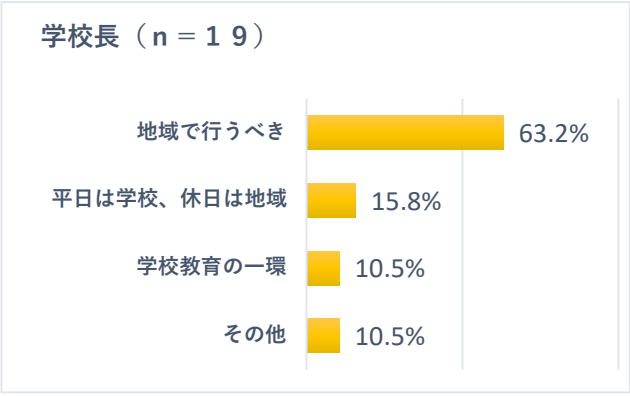
とちぎ部活動移行プラン
【基本目標】
 生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに取り組みます。
【活動目標】
 令和7(2025)年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動にすることを目指します。

年度	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)
期間	改革に向けた準備期間	改革推進期間(R5~R7)			移行期間(継続)
栃木県	栃木県部活動改革検討委員会開催 庁内部活動改革検討委員会ワーキンググループ開催				
	国庫事業を活用した体制構築・環境整備 ○実践研究(2市) 矢板市、佐野市 ○協議会の開催	国庫事業を活用した体制構築・環境整備 ○実証事業(5市、県立中学校3校) 小山市、栃木市、矢板市、那須塩原市、佐野市 県立中学校3校 ○コーディネーターの配置	国庫事業を活用した体制構築・環境整備 ○実証事業(市町、県立中学校3校) 実証事業実施市町の拡充 県立中学校3校 対象部活動の拡充 ○コーディネーターの配置	地域クラブ活動の体制構築・環境整備 とちぎ部活動移行プラン 活動目標 令和7(2025)年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動にすることを目指します。	地域クラブ活動への移行に向けた取組(継続) 地域クラブ活動の体制構築・環境整備(継続)
	普及・啓発活動 説明会の開催 総括コーディネーター派遣	休日の部活動の地域移行に関する市町支援 ○市町担当者会議の開催 ○個別相談会の開催 ○総括コーディネーター派遣	休日の部活動の地域移行に関する市町支援 ○市町担当者会議の開催 ○個別相談会の開催 ○総括コーディネーター派遣		
		「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」の設置、運用	「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」の運用		
	「とちぎ部活動移行プラン」策定	「栃木県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」策定	「とちぎ部活動移行プラン(Ⅱ期プラン)」検討		
休日の部活動の地域移行に関する情報収集、各市町の進捗状況把握 アンケートの実施					

令和5(2023)年度 休日の地域クラブ活動に関するアンケート結果について【概要版】

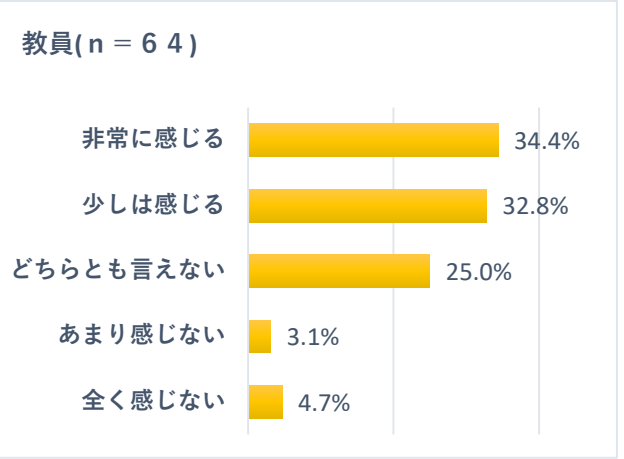
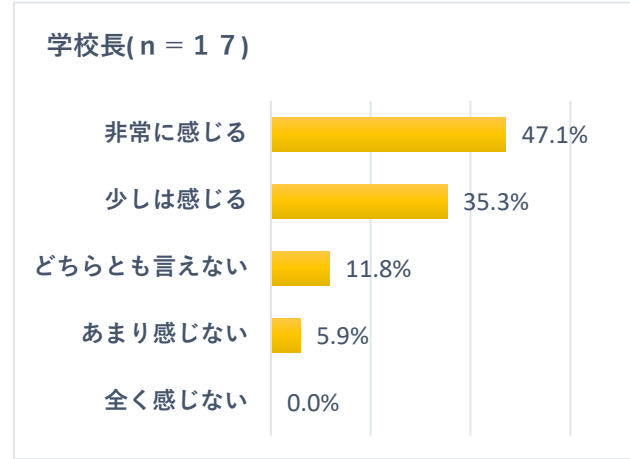
1 部活動は将来どうあるべきか。

部活動を将来的には「地域で行うべき」と校長の約63%は考えており、教員の55%も同様の回答をしている。一方で、保護者の約37%、教員の約14%、地域指導者の約12%は、「将来も部活動は学校教育の一環として継続すべき」と考えている。



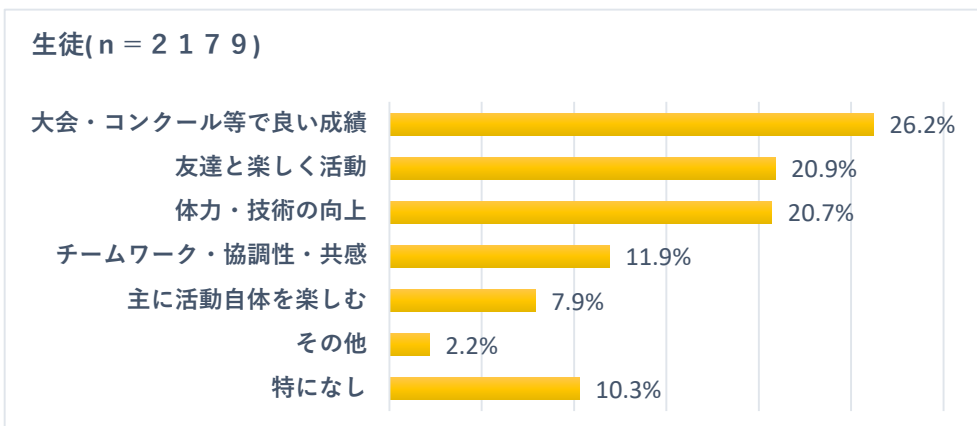
2 休日の地域クラブ活動は教員の負担軽減につながったと感じるか。

校長の約82%及び教員の約67%が地域クラブ活動は「教員の負担軽減につながった」と感じている。

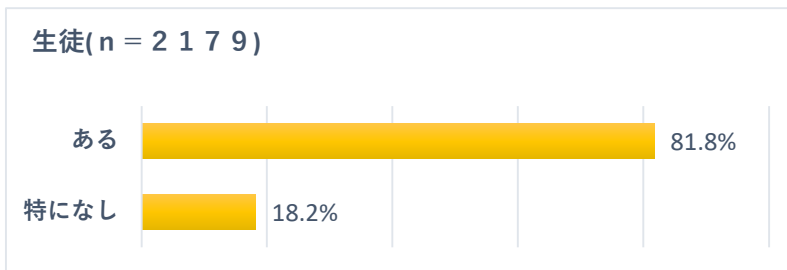


3 部活動に所属している目的はどれに当てはまるか。

生徒が部活動に所属している目的は、「大会やコンクール等で好成績を収めること」や「友達と楽しく活動すること」、「体力や技術の向上」、「チームワークや協調性を味わうこと」など様々であった。

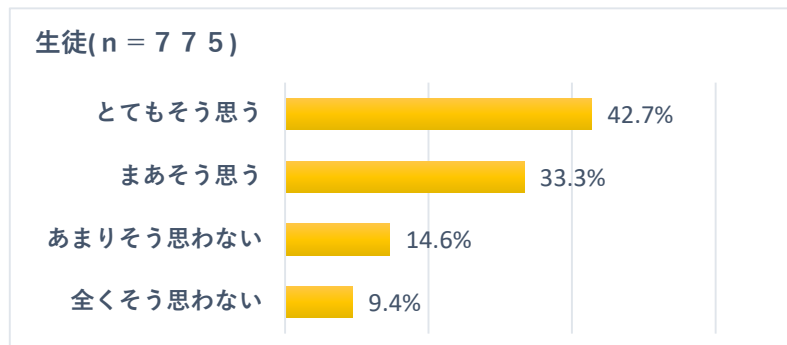


4 学校にある部活動以外でやってみたい種目や活動があるか。



約82%の生徒が学校にある部活動以外でやってみたい活動があると回答している。

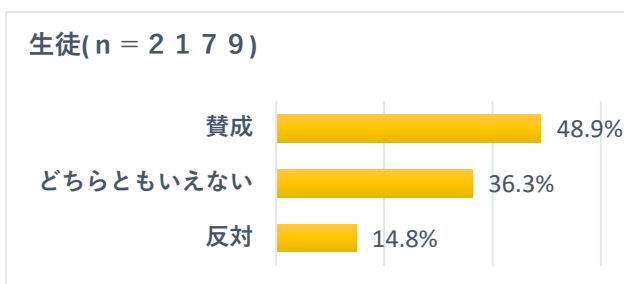
5 次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと思うか。



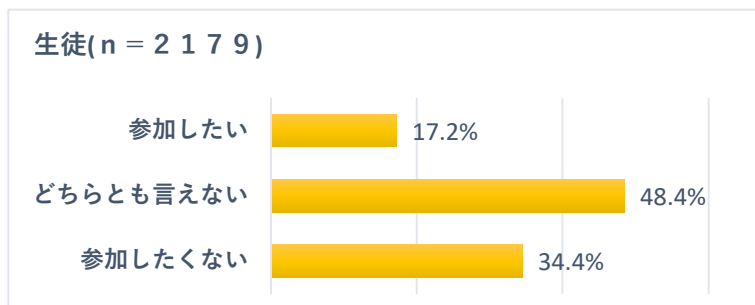
地域クラブ活動に参加した生徒の76%の生徒が次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと回答している。

6 地域クラブ活動において、小学生や高校生、高齢者等の多世代と活動することは賛成ですか。

小学生や高校生、高齢者等の多世代と活動することに対して、生徒の約49%、保護者の約67%が賛成と回答している。一方、生徒の約15%、保護者の約6%が反対と回答をしている。

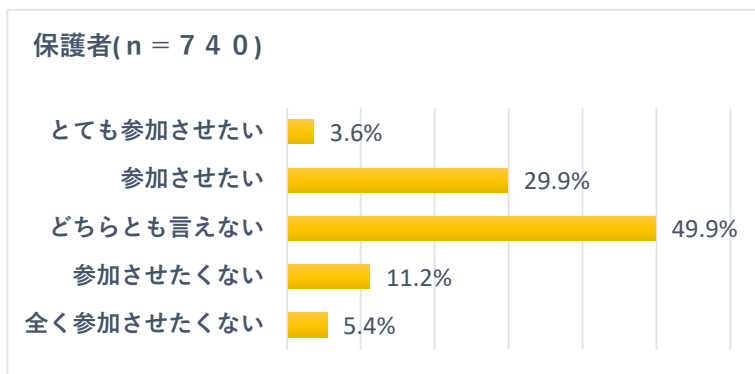


7 月謝を支払う場合の休日の地域クラブ活動への参加について。



月謝が発生した場合、約半数の生徒や保護者は参加を迷っており、生徒の約35%は「参加したくない」と考えている。

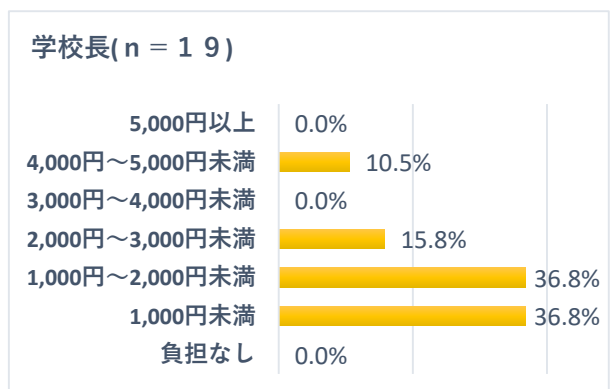
8 地域クラブ活動に参加する際に保護者負担があっても参加させたいか。



保護者の負担がある場合、保護者の約34%が「とても参加させたい」、「参加させたい」と回答している一方で、約17%は「全く参加させたくない」、「参加させたくない」と回答している。

9 休日の部活動が地域へ移行した場合、保護者が負担する妥当額（月謝）はいくらか。

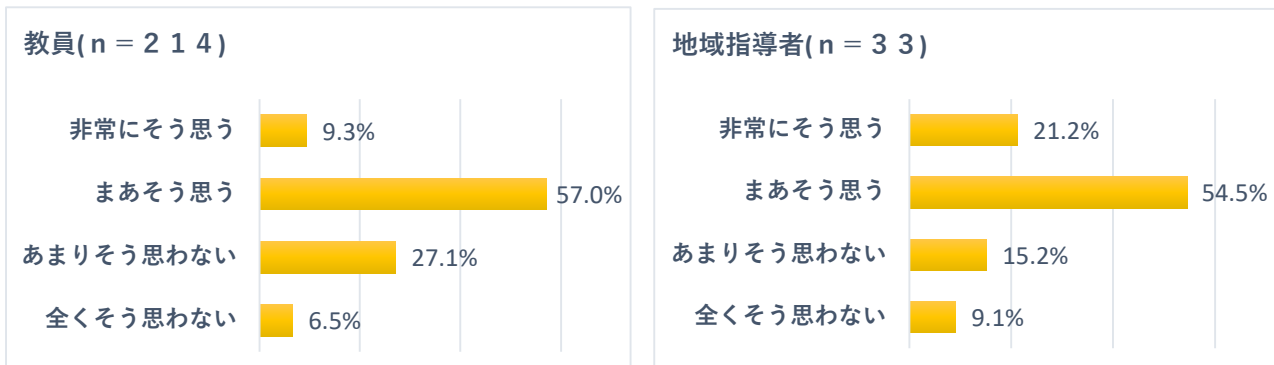
3千円未満が妥当であると回答している割合が高いが、教員の約9%、保護者の約20%、地域指導者の12%が「負担なし」と回答している。また、教員の約12%は「5千円以上」が妥当としている。



10 技術力の向上を重視し、大会・コンクールでの好成績を目指すべきか。

(休日の地域クラブ活動の在り方について)

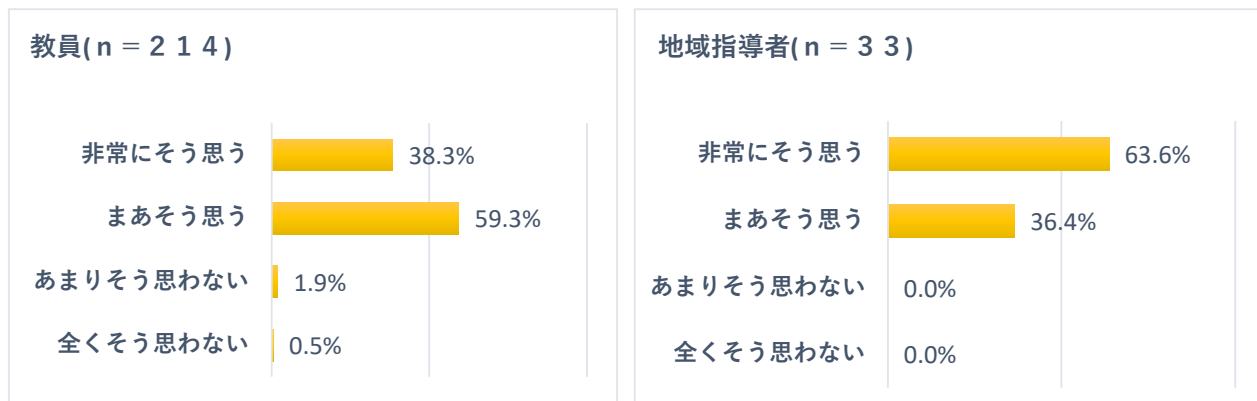
教員の約66%、地域指導者の約76%が「大会・コンクールで好成績を目指すべき」と回答している。一方、教員の34%、地域指導者の約24%が「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」と回答している。



11 生涯スポーツのための運動習慣の形成に向けて楽しく活動すべきか。

(休日の地域クラブ活動の在り方について)

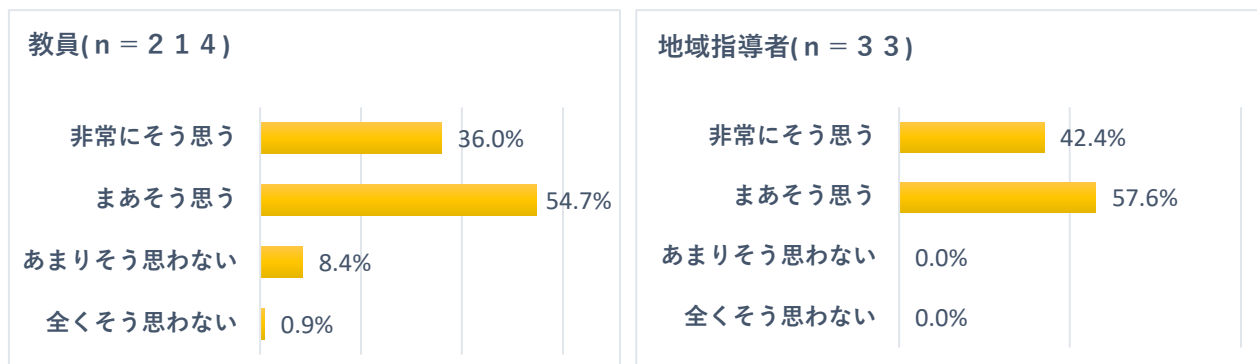
教員も地域指導者も「運動習慣の形成に向けて楽しく活動すべき」と回答している。



12 生徒のニーズに合わせた多様な活動ができるようにすべきか。

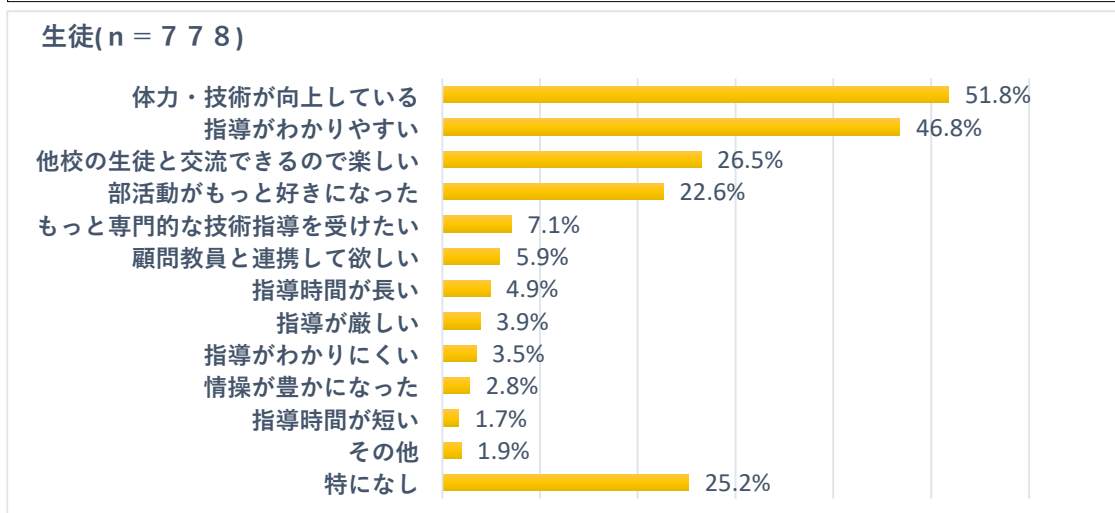
(休日の地域クラブ活動の在り方について)

教員の約91%、地域指導者の全員が「生徒のニーズに合わせた活動ができるようにすべき」と回答している。



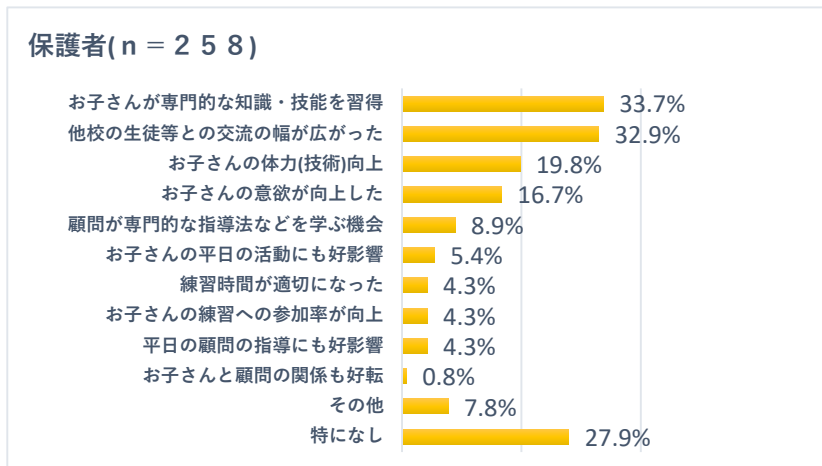
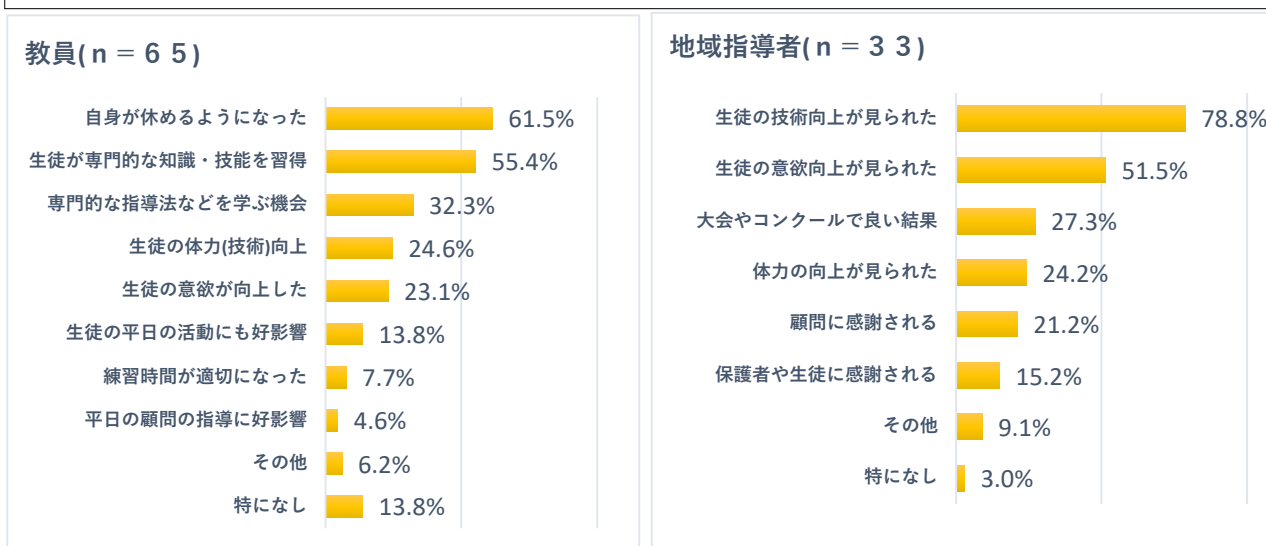
13 地域指導者の指導を受けてどのように感じてるか。

地域指導者の指導を受け、生徒の約52%が「体力・技術が向上した」、約47%が「指導がわかりやすい」、約27%が「他校の生徒と交流できるので楽しい」と回答している。



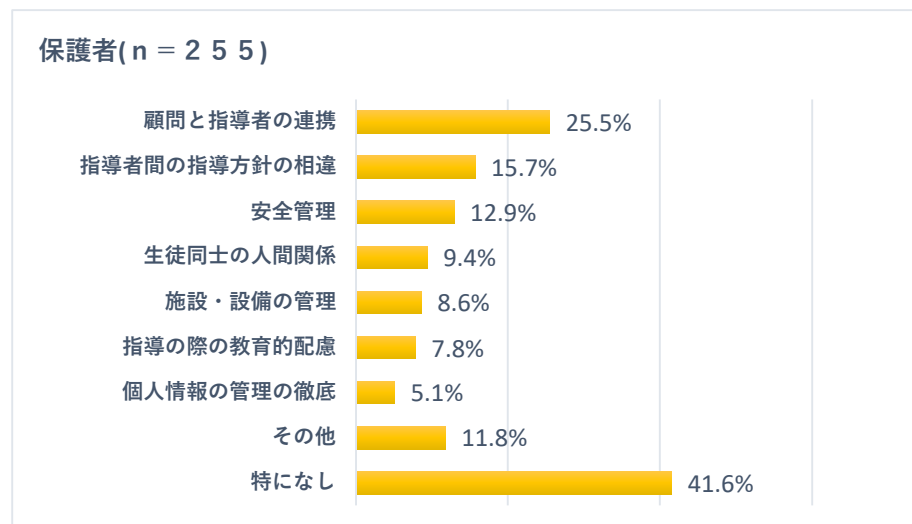
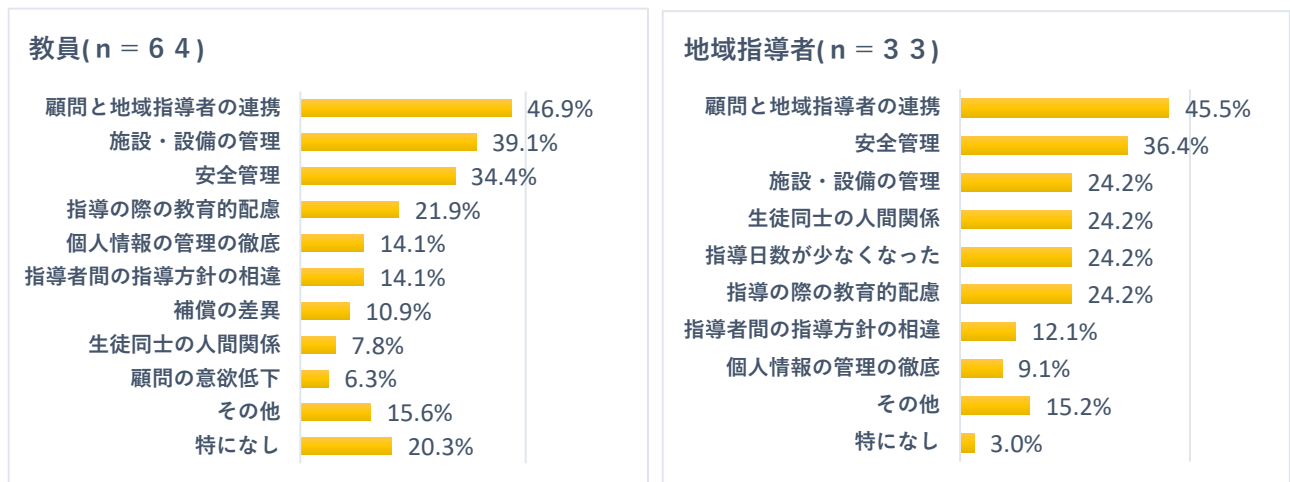
14 休日の地域クラブ活動を実践して、良かったと感じること。

教員は、「自身が休めるようになった」、「生徒が専門的な知識・技能を習得できた」との回答が多く、地域指導者は、「生徒の技術や意欲が向上した」との回答が多かった。保護者は、「お子さんの専門的な知識・技能、体力、参加意欲が向上した」との意見が多かった。



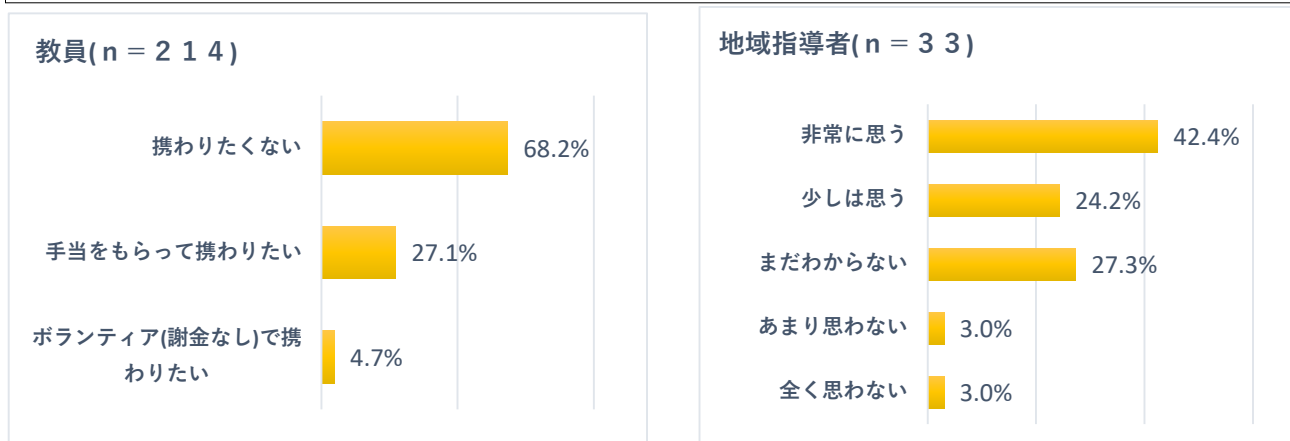
15 休日の地域クラブ活動を実践しての課題

休日の地域クラブ活動を実践しての課題は、全体では、「指導者間の連携」や「安全管理」が多く挙げられていた。個別にみると教員からは「施設・設備の管理」、「指導の際の教育的配慮」、保護者からは「指導者間の指導方針の相違」が課題として挙げられた。



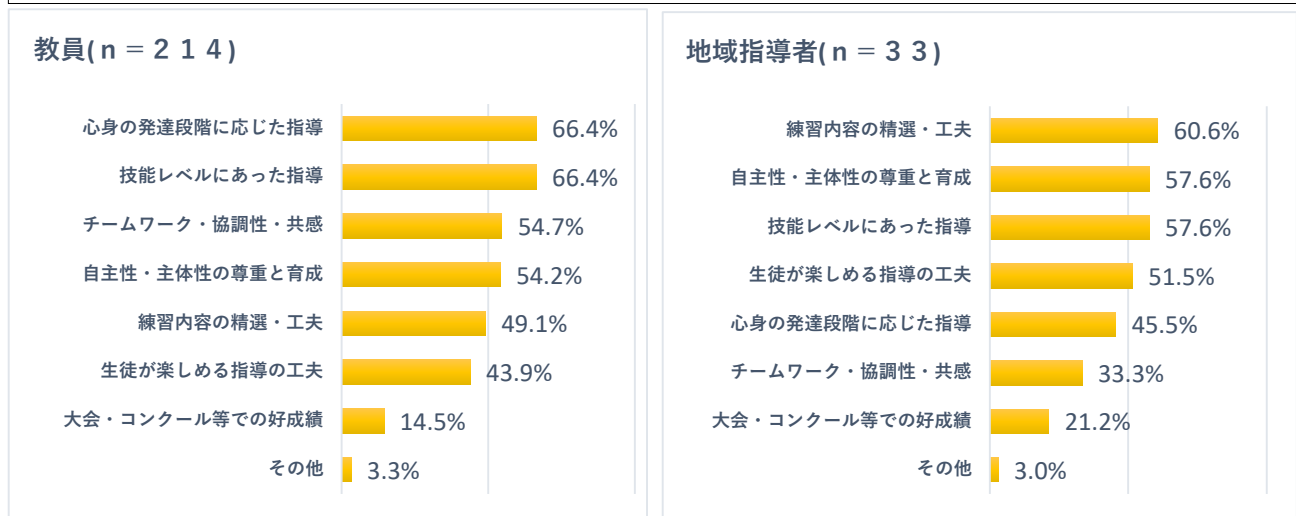
16 休日の部活動が地域に移行した際に指導に携わりたいか。

休日の地域クラブ活動に教員の約68%は「携わりたくない」と回答しているが、約32%は「携わりたい」と考えている。また、地域指導者の約67%が指導者として携わりたいと考えている。



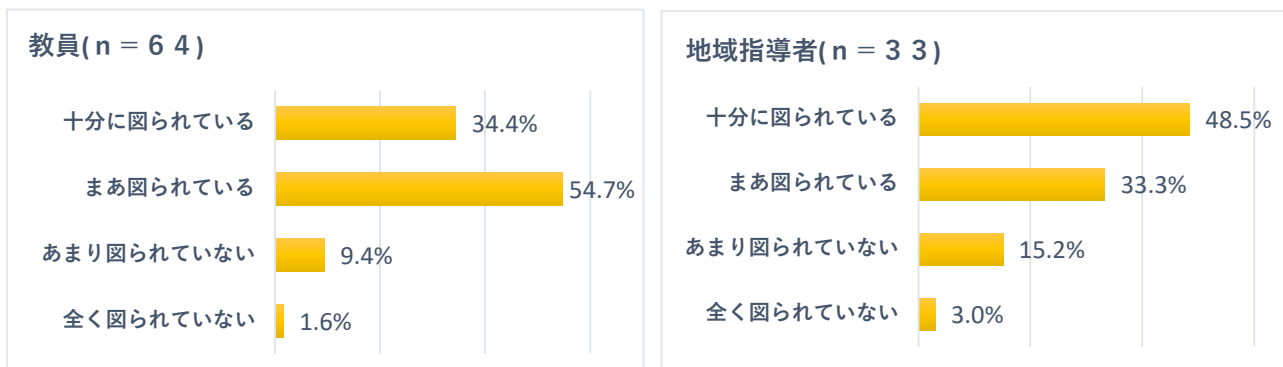
17 休日の地域クラブ活動にあたり、指導者が特に重視するべきと思う点は何ですか。

休日の地域クラブ活動について、教員は、「発達段階」や「技能レベル」など生徒の実態に応じた指導を重視するべきとの回答が多かった。一方、地域指導者は、「練習内容の精選」や「生徒の自主性・主体性の尊重と育成」を重視するべきとの回答が多かった。



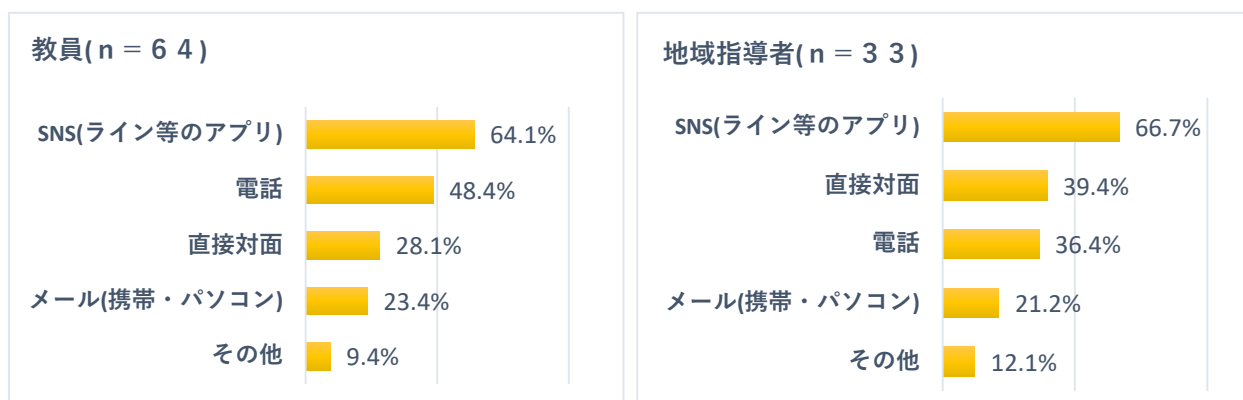
18 顧問と地域指導者との連携は図られているか。

教員の約89%、地域指導者の約82%が「指導者間の連携が図られている」と回答しているが、地域指導者の約18%が「全く図られていない」、「あまり図られていない」と回答している。



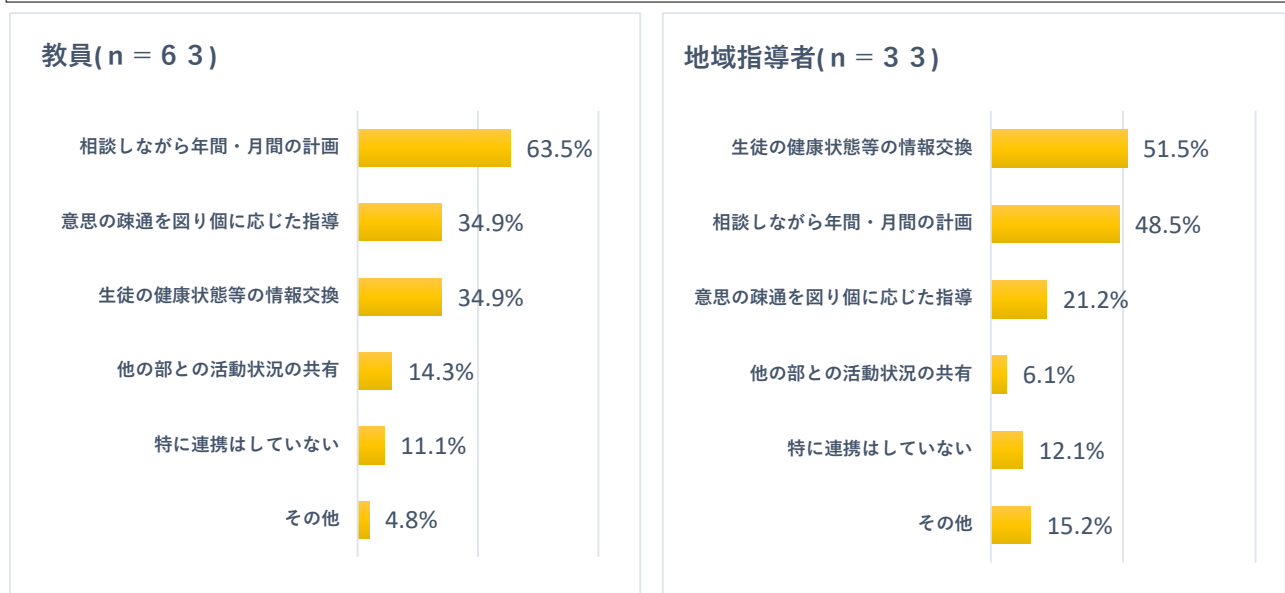
19 顧問と地域指導者との主な連絡手段

指導者間の連絡手段は、ライン等のSNSアプリ、電話が多く活用されていた。



20 顧問と地域指導者との主な連携内容等

指導者間の主な連携内容は、練習計画の作成や生徒の情報の共有に関することであるが、特に連携をしていないとの回答もあった。



21 休日の地域移行について（自由記述）

【生徒】

- 肯定的な意見では、「他校の生徒や地域の方との交流が増える」や「専門的な指導を受けて技術が向上する」といった意見が多い傾向にあった。また、「活動内容や活動場所などに大きな変化がなければ」などの条件付で肯定する意見もあった。
- 平日と休日で指導者が変わることに對しては、指導方針の違いから戸惑ってしまうという意見もあれば、様々な視点から指導を受けられる機会ができたという意見もあった。
- 否定的な記述では、活動場所への移動や保護者の送迎、参加費用の負担がある場合には、参加がすることが難しいとの意見があった。また、他校の生徒や地域の方と活動することへの戸惑いや顧問教師への安心感や信頼から学校部活動の維持を希望する記述もあった。また、吹奏楽部等の文化部において、活動場所が変わる場合には、楽器や荷物の移動が負担であるとの記述があった。
- 部活動の地域移行について「わからない」との記述も多くみられた。

【保護者】

- 全体として、教員の負担軽減に繋がるのであれば地域移行に賛成との意見が多くあがった。しかしながら、保護者としては、生徒の安全や安心できる活動を望む声が多く、指導者の質の保障や指導者に対する研修制度を求める意見、遠方の活動場所への生徒の移動について心配する意見も多くみられた。学校の先生に対する安心感から、休日についても部活動の継続を望む声もあった。
- 肯定的記述のうち、学校だけではなく、地域の方との交流が増えることや、地域の指導者から専門的な指導が受けられることにメリットを感じているといった内容が多くみられた。
- 否定的な記述内容では、金銭的な負担や送迎の負担が保護者に増えることを懸念する声や保護者への負担が増えることによって、活動の機会を失う子どもが出てくることを懸念する意見もあった。
- 部活動においても、地域の活動においても休日に活動すること自体に否定的な意見もあった。
- 部活動の地域移行の内容について、「わからない」という記述も多くみられた。

【学校長】

- 実証事業に今年度取り組み、学校の指導方針を理解している指導者に恵まれて大きな問題もなく進んできた。来年度はより多くの部活動で地域移行を希望している。指導者との連携が最も大切なところだと思われる。
- 適切な指導者の確保や保護者の経済的負担など、課題は多いが、基本的には推進していただきたい。
- 大変ありがたいことであるが、指導者の資質、能力など確保できるのかどうか。
- 平日も含めて部活動ではなく地域クラブ活動で活動すべきだと思う。
- 現在休日に開催されている大会についても議論をする必要がある。
- 理想は素晴らしいと思うが、解決しなければならない課題が多すぎると思う。学校だけで解決するのは困難である。
- 子供たちが混乱しないように、慎重に進めないといけないと思う。
- 十分な財源や人材を確保できていないのに、この制度を進めてしまっていることが問題である。そこが解消され、十分な財源や人材を確保できれば、一斉に全ての部活動が休日の地域移行ができ、教職員・生徒・保護者の不公平感なく進められると思う。
- 教職員の負担軽減のためには、休日の部活動地域移行は必要であると考えますが、指導者個人への依頼では継続的な実施は難しい。組織的な受け入れ体制の整備が実施のためには不可欠であると考えます。

【地域指導者】

- 教員の働き方改革上必要であると思う。学校と地域指導者と様々な課題を共有しながら、進めていきたい。最初は課題は多いと思うが、継続して行っていくことが大切である。
- 教員の負担を軽くするためにも地域移行は今後必要となってくると思われる。しかし、保護者の負担が大きくなるよう行政と学校側で考えて行って欲しい。
- 指導者も平日は仕事をしている為、現実的に夕方の指導は不可能である。
- 指導者は1人ではなく複数いないと指導者自身の都合もあるので、各競技2名以上はいた方がいいと思う。
- 実行しながら出会う出来事に組織と先生と現場で相談しながら対応していくことは、必須である。保護者の負担金と指導者に支払う金額もお互いが良い方向に導いていかなければいけない。今後指導者がボランティア活動レベルだとすれば、永続は厳しい。
- 休日の部活動の地域移行はとても有効だと思う。平日は顧問が、休日は地域の指導者が見ることで練習が多様化し、生徒たちも飽きずに楽しく部活動へ参加できると思う。
- 生活面の指導、対応が手薄になるように思われる。また、いろいろな面で保護者の負担が多くなると思う。大会等、地域活動ならではの落とし穴があるように感じる。
- 顧問との連携をしっかりと、生徒が楽しく練習できるように気をつける必要がある。顧問との指導方法や考え方が違ってくると、生徒達が迷ってしまう恐れがある。学校の部活動の一環として補助的に指導に当たっているの、外部指導者はその点を理解する必要がある。

【教員】

(肯定的)

○部活動顧問の負担軽減なことや学校規模に関係なく自分の興味のある活動をすることができるようになる点は良いと思う。

○学校のみ部活動だと、競技経験がない教員は専門的なことを教えることができないため、地域の方から専門的なことが学べることはとても魅力的だと思う。また、教員との関わりのみではなく、地域の方との関わりが増えることで生徒の社会性が向上したり、いつもと違う環境で行うことで意欲が向上したりすると考える。

○今回地域移行を通して確実に教員側の時間が増えた。余裕をもって平日の職務を行うことができたと思う。

○賛成である。多くの目で見てもらうことで、自分に合った感覚を掴むことができるかもしれない。また、生徒にとって様々なシチュエーションで活動することが良い経験になると思う。

○少子高齢化の進行に伴い、学校単位での活動は限界にきている。また、働き方改革の観点からも教員の業務を精選すべき。

(否定的)

○土日に自由ができたが、板挟みに合うことも多く精神的な負担はある。また、地域指導者と意見が合わず、生徒に一部不利益が出たことがあった。

○平日と休日で見ている指導者が違うことによる迷いや難しさが教員や指導者、子どもたちの中に出てくると思う。もちろん保護者も。そのような理由から、休日の部活動の地域移行には不安がある。実施していくためには、指導者側で丁寧にコミュニケーションを図りながら、互いを尊重していけるようにしていくことがとても大切であるように思う。

○保護者の送迎や費用などの負担が増え、運動に関わる生徒が激減することが考えられる。毎日、学校で家に帰らないでそのまま運動できる環境は大切である。学力も経済格差をなくそうとしているのに、学校で運動をする環境もないと、競技にお金や費用をかけて特化した選手しか生まれえない。いろんな生徒に公平に運動に参加できる環境づくりが大切である。

(条件付)

○基本的に地域移行に賛成であるが、指導者と学校側で指導の連携が密に取れるようにすることや、生徒自身が楽しく活動することができる場になることを望む。

○自分も部活指導に携わりたい人間だが、家庭の事情（特に自分の子供の発育段階）により、やりたくても思うようにできない状態だったため、指導員の方がいて非常に助かっている。可能な範囲で地域移行を進めてほしい。